
神は心の泪を流がす

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神は心の泪を流がす

【Zコード】

N8767B

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

千里はクールだ。彼女が居なくとも僕は生きているし、僕が居なくとも彼女は生きていけるだろう。

息苦しい。濁つた世界の中で、僕は呼吸すらできやしない。神は……

気付いたら雨は止んでいた、風はまだ冷たかつたけれど、空調の生温い風よりちょっと良い。

「寒くないか？」

「全然ヘーキ」

「だと思った」

獣の鳴き声が聞こえる。遠いようで近いような、距離感の無い喚き声。

時々、眼だけが異様に発達した僕らには見えない何かが蠢いている。

授業の早く終わる日はいつも決まって、千里とじ飯を食べに行き、その足で千里の家に行く。気分にもよるが大抵は寝るか酒を飲むぐらいしかやることがない。

寒い日が続くと、僕らは布団の中で、胎児のように丸まって眠つた。

「これから会える日が減るかも」

「全然ヘーキ」

「それを言わると僕は辛いよ」

「嘘々、寂しいね」

「全然ヘーキ」

「強がりは君の専売特許だし、寂しがりは私の本音だし

千里はクールだ。演技でも僕を楽しませてくれる。

僕が居なくとも千里は生きていけるし、千里が居なくとも僕は生きていける。

寄り添つて眠つても朝になれば、僕らは別々の方向を向いている。

ほとんど無意識に、僕らの足はいつものラーメン屋に向っている。雨上がりの街は、キラキラと光を放ち、暖簾を潜った僕たちの熱気に当たった頬は微かな熱を放つ。

「おじちゃん、いつもの」

「僕も」

「おう、今日もサボリか?」

「休講ですよ、いつもサボってる訳じゃないです」

店内は、こびりついた油の臭いで包まれている。葱ラーメンとチャーシュー麺が二つ、目の前に並ぶと、僕らは同時に箸を割った。

「いただきます」

古い冷蔵庫のカタカタした音と、ラジオから流れてくる野球中継が入り混じる。

勿論一人で来る事もあるけれど、千里と一緒に来るのが大半だ。千里が食べ終わるのを待つ間、野球の中継を聞いていた。勝つているのがどちらのチームで、負けているのがどちらのチームか分からぬ。それでも誰かがホームランを打ったのが分かつた。お金を払って外に出ると、暗くなっていた。もう四月になつたのに吐いた息が白くなつた。

「あつ」

「どうした千里」

「あそこ、あそこ見て」

雨で増水した川の真ん中に、少しだけ盛り上がった島がある。そこに、真っ白い猫が取り残されて居るのが見えた。

「やばいな、もうすぐダムが開いたら、助からないかもしれないな」「流れが急過ぎて、泳ぐのは無理よ」

「危ない事すんなよ」

橋の上から川を覗き込む千里に、僕は言った。

「しないよ、でも可哀相だね」

「そうだな」

千里は猫を見ているが、僕は千里を見ていた。千里の顔は真剣だ

つた。

「あつ」

「危ない！」

白い猫は一瞬で、黒い濁流の中に消えた、その白さが妙にはっきりと眼に焼きついていた。

猫一匹分の体重がこの世界から消えてしまったのだ。

「猫……死んじゃつたね」

横にあるのは、いつもの千里の顔だった。

「寒くないか？」

「全然ヘーキ……じゃないかも」

僕らは涙をえ流さなかつた、心の中で何かが痛いと叫んだ。それほど一瞬で一つの世界が消滅していくのだ。

暫くの間、僕らは真っ黒い川底を凝視していたが、やがて同時に歩き出した。

「寒いよ」

と千里が呟いて、強がりでも冗談でもなく僕の口は自然に動いた。

「結婚しようか」

と思わず僕は溢していた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8767b/>

神は心の泪を流がす

2010年10月9日21時22分発行